



福島医発第 1256 号 (総)

平成 25 年 8 月 13 日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会

会長 松 田 峻一良

(公印省略)

公益信託美原脳血管障害研究振興基金
研究助成金 (美原賞) 受賞候補者推薦について

本件につきまして、公益信託美原脳血管障害研究振興基金運営委員会より別添のとおりに案内が参りました。

つきましては、貴会会員へご周知いただきますとともに、応募がございましたら、10 月 21 日 (月) までに本会総務課宛、別添の推薦書をご提出くださいますようお願い申し上げます。本会にて取りまとめて応募いたします。

小郡三井医師会より

会員福祉担当理事 権藤秀之
会長 蒲池 壽

平成25年8月吉日

関係各位

公益信託美原脳血管障害研究振興基金
運 営 委 員 長 後 藤 文 男
受託者 みずほ信託銀行株式会社

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご厚情を賜り有難く厚くお礼申し上げます。

さて、公益信託美原脳血管障害研究振興基金は、脳血管障害に関する研究振興を目的に、
文部（現文部科学）大臣の許可を得て昭和56年に設立されました。

爾来、国内外の方々より、近年脳血管障害の研究において目覚ましい業績を挙げておられる研究者（臨床、基礎研究のいずれも可）をご推薦いただき、研究費（1,000万円）の助成を行って参りました。

このたび、平成25年度研究助成金（美原賞）候補者の募集を行うことになりましたので、同封いたしました下記の書類をご参照いただき、貴殿より研究助成金（美原賞）候補者をご推薦くださいますようお願い申し上げます。

なお、過去にご推薦をいただき、惜しくも受賞されなかった方の再度のご推薦も差支えはありません。

また、本基金は推薦者・被推薦者の個人情報をも本基金選考助成実施のために必要な範囲において取扱い、その範囲を超えて使用することは一切ありません。

敬 具

（同封書類）

1. 公益信託美原脳血管障害研究振興基金の趣意書
2. 公益信託美原脳血管障害研究振興基金の概要
3. 平成25年度研究助成金（美原賞）候補者の応募要項および推薦書
4. 平成24年度受賞者（寶金 清博様）略歴、受賞記念講演抄録

以 上

趣 意 書

本研究振興基金は、脳血管障害（脳卒中）に対する研究を振興するため、国の内外を問わず、すぐれた研究者に重点的な研究費助成及び補助を行なうことを目的とする。

衆知のように、脳血管障害とガンの両疾患は、我が国の死亡原因の首位を争うものである。しかし、ガンの研究に対する社会的関心は頓に高まりつつあり、その研究者も既に膨大な数に達しつつある。これに反し、脳血管障害の研究の重要性はややもすれば看過されがちであるとしても決して過言でない。

しかも、脳血管障害の研究においては、その成因、予防、治療、社会復帰のいずれも複雑な問題を内包し、基礎研究、臨床研究、或いは社会医学的研究のいずれも極めて忍耐強い努力を研究者に要求するものである。

この公益信託基金の委託者美原博は、既に財団法人脳血管研究所及び付属美原記念病院を設立し、多年に亘り脳血管障害の成因、診断、治療、社会復帰等の研究に努力を重ねてきたのである。しかしながら、この疾患の研究はもとより一研究組織のよくする所ではない。従って、美原博、国の内外を問わず、より広い規模において、この疾患の研究に立ち向かう英知を育成する必要を痛感し、この疾患に取り組むすぐれた研究者に重点的に研究費助成及び補助を行なわんと決意したのである。

玄に、公益信託美原脳血管障害研究振興基金を設立し、研究を奨励し、医学の進歩と人類の福祉に貢献することを念願する所以である。

昭和56年4月作成
美原博（故人）

「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」の概要

1. 基金名称 公益信託美原脳血管障害研究振興基金
2. 目的 我が国において脳血管障害の基礎的、臨床的研究が急務であることに鑑み、この分野での研究者による研究に対し、助成を行い、もって医学の進歩と人類の福祉に寄与することを目的とする。
3. 事業 脳血管障害に関する基礎的、臨床的研究に携わる研究者の研究に対し、助成金の給付を行う。
4. 当初信託財産 3億円
5. 委託者 (故) 美原 博
6. 信託管理人 武見 敬三 (参議院議員)
7. 運営委員長 後藤 文男 (慶應義塾大学名誉教授)
8. 運営委員 (五十音順) 田村 晃 (財団法人富士脳障害研究所附属病院病院長)
赫 彰 郎 (日本医科大学名誉教授)
戸谷 重雄 (慶應義塾大学名誉教授)
美原 恒 (宮崎医科大学名誉教授)
吉田 洋二 (山梨大学名誉教授)
9. 主務官庁 文部科学省 (研究振興局学術研究助成課)
10. 受託者 みずほ信託銀行株式会社

**「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」
平成25年度研究助成金（美原賞）候補者応募要項**

1. 目 的

本基金は、我が国において脳血管障害の基礎的、臨床的研究が急務であることに鑑み、この分野での研究者による研究に対し、助成を行い、もって医学の進歩と人類の福祉に寄与することを目的とする。

2. 助成の対象

脳血管障害の基礎的、臨床的研究において目覚しい業績を挙げている研究者の研究。

3. 助成件数・金額

1件 1,000万円

4. 推薦方法

推薦者は、所定の研究助成金（美原賞）候補者推薦書に候補者氏名^{ふりがな}の他、必要事項を全て記入のうえ、下記の事務局あて送付してください。

* 候補者氏名欄^{ふりがな}には、必ず候補者の自署（サイン）および押印を、推薦者氏名欄には、必ず推薦者の自署（サイン）および押印をお願いします。

5. 募集期間

平成25年8月1日（木曜日）～平成25年10月31日（木曜日）（事務局必着）

6. 選考方法

本基金の運営委員会において決定します。

7. 研究助成金（美原賞）の贈呈

平成26年2月（予定）

8. 問い合わせ先および推薦書送付先

〒103-8670 東京都中央区八重洲1-2-1

みずほ信託銀行株式会社 個人業務部

「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」事務局

電 話 (03) 3274-9210

F A X (03) 3274-9504

- (注) 1. 助成金は贈呈後の 1 年間に使用することを原則とし、使用期間が 1 年以上の場合は、研究の進捗状況に関する中間報告（書式は任意）を事務局あて提出してください。
2. 研究助成金（美原賞）受賞者は、研究成果報告書（経過と結果）および助成金の使用状況についての収支報告書（領収書等を添付）を提出してください。また、専門誌等に研究成果を発表する際は、“公益信託美原脳血管障害研究振興基金より研究助成金を授与された研究である”旨を記載してください。
3. 研究助成金（美原賞）受賞者の、受賞記念講演抄録、写真、略歴ならびに業績集を当基金のホームページに掲載します。

公益信託美原脳血管障害研究振興基金
平成25年度研究助成金（美原賞）候補者推薦書

公益信託
美原脳血管障害研究振興基金

御中

2013年 月 日

(推薦を受ける研究者の) ふ り が な 氏 名 上 記 英 文 名 生年月日 年齢	
所 属 機 関 上 記 英 文 名	
職 位 ・ 学 位 上 記 英 文 名	
最 終 学 歴	西暦 年 月 大学卒業 西暦 年 月 大学院修了・退学
上記研究者を、貴基金研究助成金（美原賞）候補者として推薦します。 推 薦 者 (自署願います) ふ り が な 氏 名 所 属 機 関 職 位 所 在 地 電 話 番 号 印	

推薦理由

* 推薦者は、具体的に主要な業績を挙げてご推薦下さい。

キーワード

- 1.
- 2.
- 3.

被推薦者調書

(被推薦者ご自身にてご記入願います。)

* 研究助成金を受けて行う研究テーマ

* 研究テーマに関する所要金額

* 研究目的

* 研究計画

被推薦者調書		
* 主要文献 (10 編以内)		
被推薦者 (自署願います)	氏 名 所属機関 職 位 所 在 地 電話番号 E メール	印

平成 25 年 1 月 1 日現在

略 歴

氏名 寶金清博（ほうきん きよひろ）

生年月日 1954 年（昭和 29 年）9 月 24 日生まれ

現職

北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座脳神経外科学分野 教授

〒060-8638

札幌市北区北 1 5 条西 7 丁目

履歴

1979年 北海道大学医学部卒業

1991年 北海道大学脳神経外科助手

1992年 同講師

2000年 同助教授

2001年 札幌医科大学脳神経外科教授

2006年 札幌医科大学付属病院副院長（医療安全担当）

2010 年 3 月 北海道大学大学院医学研究科脳神経外科学分野 教授

2010 年 9 月 北海道大学病院副病院長

専門

脳卒中の外科治療、脳血行再建術、もやもや病の外科治療、脳虚血の基礎・臨床研究
磁気共鳴画像法、医療安全・医療倫理

留学

1986 年—1989 年 米国カリフォルニア大学デービス校客員研究員にて磁気共鳴医学研究

1996年 文部省在外研究員として米国スタンフォード大学、英国王立神経研究所等に留学

主な学会役職

日本学術会議連携会員、日本脳神経外科学会理事、日本脳卒中学会理事、日本脳循環代謝学会理事、米国脳神経外科アカデミー会員、米国心臓病学会（AHA）会員、米国脳神経外科学会会員、米国脳神経外科コンgres会員

受賞暦

1995年 第 22 回かなえ医学助成奨励賞

1999年 日本脳卒中の外科学会賞（鈴木賞）

2007年 北海道医学賞

編集委員等

編集委員長：脳神経外科速報

編集委員：Neurosurgical Review、Neurologica-Medico Chirurgica（日本脳神経外科学会機関誌）、Journal of Stroke and Cerebrovascular Disease（日本脳卒中学会英文機関誌）、脳神経外科（医学書院）

特許

識別番号：1 1 0 0 0 0 3 3 8

名称：改善された増殖能を有する細胞およびその評価方法

もやもや病の血管内皮細胞に関するポストゲノム研究

宝金清博

北海道大学大学院医学研究科

脳神経外科

歴史的には、もやもや病の原因として感染症・自己免疫疾患・環境因子・遺伝子異常などが研究対象とされてきた。そして、近年は、家族発症例のゲノム解析がその中心的研究課題となってきた。その結果、Microsatellite 解析や SNP 解析によって 17 番染色体短腕に遺伝子異常の存在が示唆され、最近、原因遺伝子である可能性が高いとして RNF213 が特定された。しかし、RNF213 以外の多因子遺伝が関与していることも明らかであり、遺伝子異常がこの複雑な疾患の発症に関与するメカニズムを明らかにするには、他視点からの研究が必須である。例えば、もやもや病の主病変が内頸動脈終末部に限局した狭窄病変であることなどはゲノム研究だけでは必ずしも解決を見ない。

近年、末梢血中に存在する EPC は骨髄に存在する多能性幹細胞に由来し、さまざまな臓器における vasculogenesis や動脈硬化の進展に重要な役割を演じていることが明らかとなった。従来、内膜病変に存在する平滑筋類似細胞は中膜筋層由来と考えられてきたが、最近の研究で、循環血中に存在する EPC に由来することが示された。もやもや病においても、我々を含め preliminary なデータが報告され、その病態に EPC が重要な役割を果たしていることが示唆された。我々はもやもや病患者の内頸動脈終末部の病理標本をもとに、内頸動脈終末部の肥厚内膜には EPC が多数存在していることを世界で初めて明らかにし、もやもや病の病因究明に新たな視点を見出した。

また、もやもや病には現時点で有効な疾患モデルが存在せず、このことが病因解明や、外科的血行再建術以外の有効な治療法の開発を阻んでいる。iPS 細胞は、成熟・分化した体細胞から人為的に誘導された自己増殖能および多分化能を示す未分化細胞である。技術的にはヒトの皮膚表皮細胞や白血球などから作成可能であり、血管内皮細胞に分化させることも可能になっている。もやもや病患者からの iPS 細胞作成と血管内皮細胞への分化、そしてその培養細胞を用いた機能解析には、全く新しい疾患モデルとしての可能性が開かれている。

本研究では、主病変である内頸動脈終末部狭窄を構成する血管内皮細胞に着目し、病態への関与に関する研究を行う。すなわちもやもや病患者の術前後に末梢血中の EPC を測定し、また関連する血漿中の biomarker を測定することで、EPC がもやもや病の発生と進展に関与する機構を解明する。さらに、もやもや病患者の体細胞から iPS 細胞を作成し血管内皮細胞へ分化させ、培養細胞の機能解析などを通じもやもや病の原因究明や、治療法開発の基盤研究を行うことを目的とする。